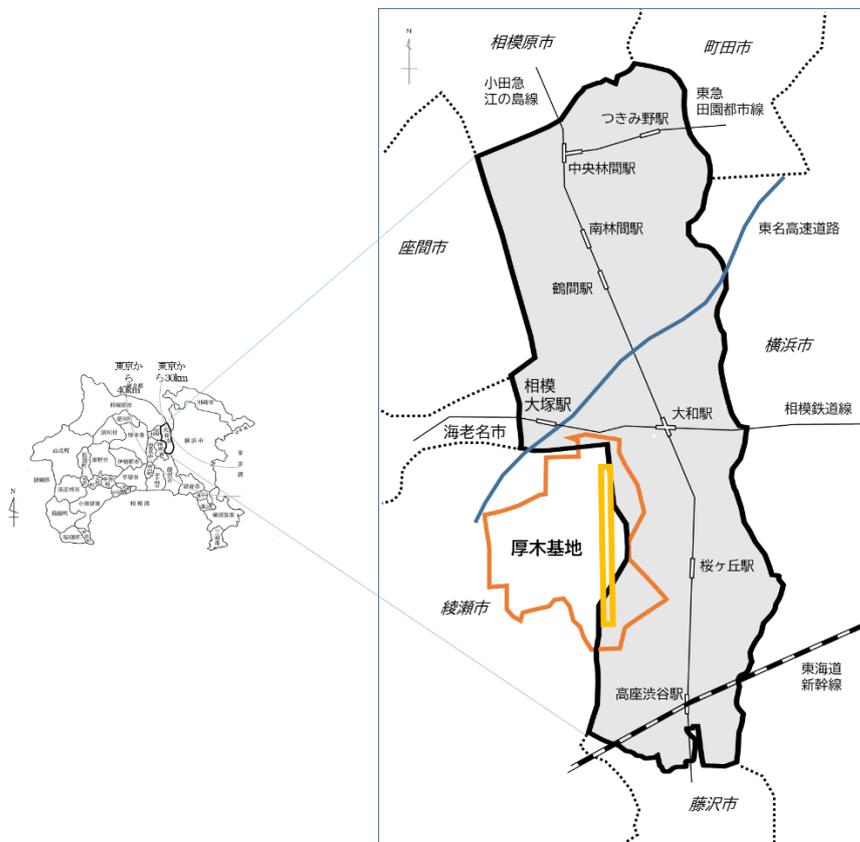


『大和市と厚木基地』

1 厚木基地について

(1) 厚木基地の沿革と概要

厚木基地は、米海軍と海上自衛隊が共同使用する航空基地で、大和市と綾瀬市に所在しており、大和市域の南西部に位置しています。厚木基地の敷地面積合計は約 506 万平方メートル（うち大和市域：約 111 万平方メートル）と広大で、南北に延びる滑走路は大和市側に所在しており、その延長線上には神奈川県内で 2 番目に人口密度が高い大和市の住宅密集地域が広がっています。このような都市化した地域に航空基地である厚木基地が所在することで、街づくりの支障や航空機の騒音問題、事故への不安、周辺環境への影響など、市民生活に様々な影響を及ぼしています。



【滑走路の延長線上に広がる大和市の住宅密集地域】

① 厚木基地の沿革

厚木基地は、昭和13年（1938年）に旧日本海軍が航空基地として定めたことから始まり、昭和16年（1941年）には帝都防衛海軍基地として使用が開始されました。その後、昭和20年（1945年）の終戦により連合軍を構成する米軍に接收されました。そして、昭和25年（1950年）には、米陸軍から米海軍に移管され、「米海軍厚木航空施設」として米第7艦隊の後方支援基地として現在に至ります。この間の昭和46年（1971年）には、基地の一部が海上自衛隊に移管され、「海上自衛隊厚木航空基地」となり、厚木基地は日米が共同使用する基地となっています。

厚木基地は厚木市にはなく、基地の名称とは異なる本市と綾瀬市に所在します。このことは多くの人の疑問となっているところです。この名称の由来については、「この近隣で古くから宿場町、生産物の交易の場として栄えていた厚木町の名が全国的に知られていたため」、「基地の所在を欺くなど、軍事上の理由により他の地名が付けられた」、「大和基地とすると、戦艦大和や奈良の大和と混同しやすいから」など諸説あります。しかし、そのいずれも確証がなく、未だに名称の由来は解明されるに至っていません。



【昭和20年（1945年）厚木基地に到着したマッカーサー元帥】



【昭和26年（1946年）頃の厚木基地の旧管制塔】



【現在の格納庫】



【現在の厚木基地の管制塔】

② 厚木基地の概要

名 称	厚木海軍飛行場 (FAC3083)	
所在地等	大和市 上草柳、下草柳、福田、本蓼川 綾瀬市 深谷、蓼川、本蓼川	
	標点位置	北緯 35° 27' 17" 、東経 139° 27' 0"
	標 高	62m
面 積	約 5,056 (千㎡) (大和市域分約 1,112 (千㎡))	
	内 訳	国有地 約 5,056 (千㎡) 民有地 約 100 ㎡
主な施設	滑走路	延長 2,438m×幅 45m (8,000 フィート×150 フィート) コンクリート舗装 オーバーラン南北各 300m (1,000 フィート)
	誘導路	延長 6,764m×幅 22m コンクリート舗装
	建 物	格納庫施設、管制塔、オペレーション施設、 事務所施設、住宅施設、倉庫施設、 娯楽施設、貯油施設、エンジン試験場、 ゴルフ場、射撃場、弾薬庫 G C A } (※注を参照) I L S }
使用形態	米海軍と海上自衛隊との共同使用	
使用者別	米 海 軍	海 上 自 衛 隊
配属部隊	厚木航空施設司令部 第 5 空母航空団(回転翼機部隊) 第 51 海上攻撃ヘリコプター飛行隊 西太平洋艦隊航空司令部 など	航空集団司令部 第 4 航空群司令部 第 3 航空隊 第 4 整備補給隊 厚木航空基地隊 第 51 航空隊、第 61 航空隊 航空管制隊 航空プログラム開発隊 厚木システム通信分遣隊 厚木情報保全派遣隊 厚木警務分遣隊 など

- ※ (注)・ G C A (地上誘導着陸方式) : 視界不良の時、地上レーダー (空港監視レーダー、及び精測進入レーダー) により、進入開始から接地点付近までの航空機の動きを監視し、無線電話により適切な経路を指示し着陸させる方式で、このための装置
- ・ I L S (計器着陸装置) : 航空機が計器飛行状態で滑走路に正確に進入、着陸できるように、地上から誘導電波を発射し、着陸させる装置